

阪大ボランティア人間科学研究科の学生・院生がつくった 「世直しの法則集」から

学期末のレポート課題は、「ゲストと出会って考えたこと」「私が見つけた世直しの法則」でした。
豪華なゲストと出会うなかで学生たちが発見した、目から鱗！の世直しの法則のいくつかをご紹介します。



●織田信長＋豊臣秀吉＋徳川家康の法則●

～三者の要素を一人で備える世直し人～

岡崎貴志

① きっかけは社会に対する疑問や不満から

自分の困難な体験や経験から社会に対する疑問や不満からが生じ、それがきっかけとなって行動を始める。『世直し』をおこなおうと思って行動するのではなく、自分の困難な体験や経験から我慢できずに行動した結果、『世直し』に繋がるのである。

② 仲間を多く持つこと

同じような考えを持つ人たちと一緒に行動していく。さまざまな分野の人たちを仲間にして、いろいろな人の意見を取り入れていく。また、時として、一見敵対関係にあるような人も仲間にしていくこと。『世直し』は決して一人ではおこなえない。

③ ピンチをチャンスと考えること

困難な状況に遭遇しても、それをピンチだと考えずにチャンスだと思って行動していく。物事を悲観的に考えずに、常に自分の中で成功をイメージし、前向き物事を考えて行動していくこと。また、失敗をいつまでも引きずらずにすぐに気持ちを切り替えて、その失敗を成功に変えていく。

④ 継続して行動すること

人から賛同を得られなくても、日の出に当たらなくても、自分の信念を持ち継続して行動していくこと。途中で諦めずに継続していくことが必要である。そうした姿勢がのちの成功に繋がるのである。



コメント

作家司馬遼太郎さんは作品の中で、社会変革は、まず犠牲になる人、次ぎに発展させる人、最後に安定させる人が必要であると述べています。(織田信長→豊臣秀吉→徳川家康)

『世直しの人間科学』のゲストに来られた方々は、この三者のどの一人でもなく、むしろこの三者の要素を一人で備えているような気がしました。自身の経験からある程度の犠牲を払い、人脈を駆使して、日の出に当たらなくてもじっと我慢して継続していくことが『世直し』に繋がっていくのではないかと思います。

★世直しのレシピ★

～材料さえそろえば、いつでもどこでも始められる！～

東元やよい

「世直し」とは？～「世直しの作り方」を作るにあたって～

世直し… 社会の改革。古くは江戸時代、富を独占しようとする豪農や豪商に対して、自分達の地位の向上や生活の改善を求めて庶民が立ち上がり、打ち壊しや世直し一揆に発展した。そして現在、豊かに見える日本も様々な矛盾を抱えている。武力の行使とは言わないまでも、私たちも世直しに関わっていくべきではないだろうか。授業で出会った個性あふれる様々な「世直し人」の体験談を参考に、世直しについての簡単なレシピを作成した。



所要時間：人によりけり。達成までが短ければ良いというものでもないし、未達成に終わる可能性も有る。中には一生を費やす人もいるが、彼らは変化を起こそうと努力する中で次の問題意識を持つに至り、解決に向けての行動を起こしていく。

材料：<きっかけ>たとえば「どうして下り用のエレベーターは少ないのだろう」から「どうして私が医療事故に遭ったのだろう」まで、幅広いレベルにわたる疑問・憤慨・怒りなど。

<その人なりの価値観>

既存の体制や状況に「モノ申す！」ためには、今までとは違った物の見方も必要。これにひきつけられて賛同者が現れる場合が多い。

<ショウガ>自分はこんな事を言いたい、こんなことに疑問を感じている、でもそんな事をしたって「ショウガない…」と思わないこと。まずやってみる。

<行動力>大きく踏み出す力ではなく、始めの一步を繰り返す力のこと。

<支えとなる人や物・信念>

行き詰まりや不安を感じたり、自分の利益を守るために「世直し」を妨げる者が現れたりするが、これらはそのような事態に立ち向かう力、あるいは「心の逃げ場・休息所」をくれる。

<わらじ>二足でも三足でも、色々な分野の知識を持っているに越したことはない。そのためには、普段から色々な考えを持つ人と接すること。

調理法：材料さえ揃えばいつでも、どこでも作り始めることができる。アプローチは人によって様々。

どのやり方が正解、というものでもない。難しく考えすぎず、自分を信じて地道に努力を重ねれば、結果は必ずとついてくるのではないだろうか。



●「世直し人」の5つの法則●

～志・自ら動く・ネットワーク・笑顔とユーモア・冷静な分析力～

福島容子

3年間を通して学んだ世直しの法則は以下の5点です。ゲストの方々を通して発見した「世直し人の法則」とも言えるかもしれません。

①まず、なんとか現状を変えたい！という**志**、**熱い思い**から世直しは始まると思います。ゲストの方々はみなさん、内に秘めた熱い思いを持っていらっしゃいました。それらは、「世の中を変えてやる！」というよりは、この現状をなんとかしなければ、という「内からあふれ出る切実な思い」だったと思います。

②ゲストの方々は現状打開のために、人に頼ったり文句を言ったりするだけではなく、まず**自ら動いて**おられました。フットワークの軽さに驚かされました。



③しかし、人が1人でできることは限られます。そこで同分野、異分野を問わず**人と人とのネットワーク**が必要です。これはまず、3年間由紀子さんの実践を見聞する中で学びました。ゲストの方々では、例えば北岡さんは、職員、さらには行政も巻き込んで改革を進めてこられました。今回のゲストではありませんが、北川賢司さんも、市町村の横の繋がりを作ってこられました。そしてそれぞれが触発されたり、得意分野を補ったりすることにより、滋賀県の介護保険はよい方向へ飛躍しました。

ネットワークをつくっていくには、②で触れたフットワーク、④のユーモアと笑顔が必要だと思います。自らフットワーク軽く活動すること、ユーモアと笑顔でより多くの人を活動に巻き込んでいけると思いました。

④活動には人を惹きつける**ユーモアと笑顔**も必要だと思いました。ゲストの方々は深刻な問題に取り組んでいらっしゃるにも関わらず、とても明るくユーモアたっぷりの方が多く、毎回お話を惹きつけられていました。悲壮な顔つきばかりをしていては、人は集まらないと思いました。北岡さんの、「行政との関係についても対立するのではなく、おかしな制度を笑いながら変えていく」という言葉にもこれは現れていると思います。



⑤上記のことに加え、世直しには現状の問題点を分析し、どうしたら変えていけるかを**冷静に分析する分析力**、変えるための戦略が欠かせないと思います。例えば勝村さんは、医療事故の原因を分析され、レセプトが開示されていなかったことがひとつの根元だとして、その開示に取り組んでこられました。「禁煙マラソン」の高橋先生のネットワークも実は綿密に計算された中で行われていることがわかりました。

以上が、私が見つけた、世直しリーダーの方々に共通している世直しの法則です。一気にではなくとも活動が続けることが、**少しずつ**世直しに繋がるということも学びました。

◆3つの上手の法則◆

～キャッチボール・つなぎ・ひきだし上手～

吉田麻衣子

さまざまな分野で活躍しておられるゲストの方々のお話を通じて考えた世直しをするひとの特徴を『～上手』というかたちで下記のようにまとめてみました。



○ キャッチボール上手 ○

旧来の組織は、上から下へのトップダウンのやり方で、思考の硬直化を招くことにもなりました。一方、今回の皆さんのお話では、スタッフ間で意見が言いやすい関係（双方向）な関係が魅力的でした。

世直しする人

「～上手」

○ つなぎ上手 ○

世の中を直すと言っても、全てのハード（建物・施設）を作り直せるわけでもなく、人が入れ替わるわけでもありません。でも、世直しをする人は、ニーズのありかや資源（人・モノ・資金・情報など）を知っていて、それらをつなぐことで新たなパワーを生み出します。

○ ひきだし上手 ○

リーダーとして、スタッフやボランティア、利用者の持つ能力をうまく引き出しています。こちらから見れば「活用している」といえますが、「活用されている」側は喜んでいる。そんな“おたがいさま”が秘訣です。例）木原先生のケボラ、北岡先生の障害を持つ方の隠れた能力（美術・芸術）発掘 など

その他、情報公開の徹底など、組織のメンバーやサービスの利用者、また地域住民から「見える」ガラス張りの組織作りを心がけることなども挙げられるでしょう。

講義を受けるまえは、「世直し」というと打ち上げ花火のようなイメージを考えていましたが、実際には、一つ一つの積み重ねで、いつ花を咲くかを期待しながら、土に水をやり、肥料をやるそんな地道な作業であることに気づきました。

